

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【京都府】

学校名【 京都府立 聾学校 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	本校高等部 卓球部、陸上競技部1～3年生（22名） 本校中学部 卓球部、陸上競技部1～3年生（10名） 分校幼稚部、小学部（12名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 中学部：体育 高等部：体育 ） ② 行事名（分校幼稚部、小学部：交流及び共同学習 ） ③ その他（ 本校中学部、高等部：部活動 ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	・交流を通して、人権意識の向上を高め、あらゆる障壁に挑戦する力、意欲を身につける。 ・障害のあるなしにかかわらず、自分のできることに自信を持ち、他者とつながる気持ちを育む。 ・活動を通して、大きな集団で活動し、個人の目標を達成する喜びを知る。
5 取組内容	（1）中学部、高等部の取組 ① 事前学習（北嵯峨高等学校生徒対象）7月12日 実施 ア 今回の活動の目的と活動内容について イ 京都府立聾学校について （ア）聴覚障害について （イ）手話について （ウ）コミュニケーション方法について （エ）困った時の対応などについて ② 事前学習（本校中学部、高等部生徒対象） ア 今回の活動の目的と活動内容について イ 交流に向けての姿勢について ③ 交流当日 ア 北嵯峨高等学校女子ソフトボール部と高等部陸上競技部 （ア）合同練習 7月18日 実施 （イ）交流試合（混合チーム）8月22日 実施 イ 北嵯峨高等学校卓球部と中学部、高等部卓球部 （ア）合同練習 9月24日 10月24日 実施 （イ）試合

	<p>ウ 北嵯峨高等学校陸上競技部と中学部、高等部陸上競技部 (ア) 合同練習 7月11日実施</p> <p>④ 事後学習 取組後に感想等の交換等</p> <p>(2) 舞鶴分校幼稚部、小学部と西舞鶴高等学校女子バレーボール部との交流</p> <p>① 事前学習（西舞鶴高等学校女子バレーボール部員に対して） 7月13日 実施 ア 今回の活動の目的と活動内容について イ 京都府立聾学校舞鶴分校について (ア) 聴覚障害児・者の聞こえ方について (イ) コミュニケーション方法について 手話による挨拶と指文字による名前の練習 (ウ) 関わりをもつ上での留意点</p> <p>② 事前学習（分校幼稚部、小学部の幼児児童に対して） ア 今回の活動の目的と活動内容について イ オリンピックやパラリンピックについて 歴史や実施種目、日本人の成績など ウ 西舞鶴高等学校について</p> <p>③ 交流当日 7月17日 実施 ア 出会いの会（挨拶、自己紹介） イ 「億万長者ゲーム」で遊ぼう ウ バレーボールのデモンストレーション（練習の見学） エ バレーボールを楽しもう 幼稚部・小学部1年生：風船バレーで遊ぼう 小学部2～6年生：ソフトバレーによる練習 オ ソフトバレーボールの試合 カ 終わりの会（鑑賞発表、挨拶） 事後指導</p> <p>④ 事後の取組 分校幼児児童より手紙を届ける。</p>
6主な成果	<p>1 高等部生徒 競技のレベルは勿論のこと、練習や試合に取り組む姿勢や態度を学ぶことができ、生徒にとって貴重な体験ができた。合同練習をすることで北嵯峨高等学校の生徒を目標にして、終了後も向上心をもって練習に取り組んでいた。</p> <p>2 中学部生徒 恥ずかしさからかやや消極的になる場面もあったが、交流を通して、楽しく活動できていた。その後の練習も意欲的に参加できていた。</p> <p>3 舞鶴分校幼児児童 2年目の取組となり、舞鶴分校の幼児児童も見通しを持って参加することができた。特に、今年度は分校児童が中心となってすすめるゲームを取り入れたことで、幼児児童と高校生との関わりがさらに深まった。また、高校生と楽しく交流するだけでなく、練習や試合をとおしてバレーボールのルールの理解やスポーツへの興味・関心を高める貴重な機会となった。 事後学習として手紙を書くことで、次の交流への期待を膨らませることができた。（2回は他の行事の関係で実施できなかった）</p>

交流の様子
「本校交流」



京都新聞平成 30 年 7 月 12 日 (木) 朝刊
「分校交流」



7 実践において工夫した点 (事業の特色)

高等部、中学部

- ・聾学校の教員から北嵯峨高等学校の生徒に対して聴覚障害や手話についての説明を行った。
- ・交流当日では生徒同士での交流の場を多く設けた。聾学校の生徒も筆談などのコミュニケーションを使って、交流を深めることができた。

舞鶴分校

- ・事前に高校に出向き、聴覚障害や手話等について学んでもらう機会を作った。
- ・舞鶴分校児童が主体となって取り組めるように、児童会で取り組んでいるゲームを取り入れた。

8 主な課題等

- ・1 年間又は複数年など、長期的に計画をして取り組みたい。
- ・担当者で実施状況が変わる。
- ・放課後等に実施するが、活動時間が短くなる。
- ・現状では、日程的に夏季休業前に取り組まざるを得ないが、暑さへの対応も考慮して時期を検討する必要がある。(舞鶴分校)
- ・交流の時だけでなく、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるための指導や働きかけを意識的に行う。(舞鶴分校)

9 来年度以降の実施予定

- ・次年度以降も継続して実施したい。
- ・可能であれば授業日以外に複数校で同一日に実施し、合同練習、対抗試合などを実施したい。
- ・スポーツ以外の内容による交流も検討したい。